

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

日 時	令和5年11月28日(火) 18時30分 ~ 19時20分
会 場	市役所 3階 会議室3D
出席委員	阿部恵子委員、岩本麻実委員、立花秀俊委員、月居忠文委員、辻村匠委員、常田拓孝委員、中村寛成委員、西崎毅委員、ハンラティー梓委員、前田優委員、松原康雄委員、村山明子委員
欠席委員	菅野清徳委員
市出席者	【教育委員会】吉田教育部長、鹿野教育部理事、川又学校教育課長、 (庶務)河合教育総務課長、永坂参事、相木主査、宮越主事 【オブザーバー】千葉企画財政部長、下野企画課長
傍聴者	なし

1 開会

委員の過半数が出席していることから、会議が成立していることを確認し、開会。

2 委嘱状の交付

5月16日に開催された教育委員会会議において可決された再任13名の審議会委員に対し、教育部長より委嘱状を交付。

3 会長及び副会長の選任

互選により、会長に常田委員、副会長に西崎委員を選任。

4 挨拶

審議会から、常田会長及び西崎副会長より再任に係る挨拶。
教育委員会から、教育長不在により、代理として吉田教育部長より挨拶。

5 会議録署名委員の指名について

会議録の署名委員として、月居委員を指名。

6 報告

事務局(教育総務課参事)より、資料6に基づき追加諮問事項の答申について報告。

【会長】

○事務局から追加諮問事項の答申について説明があったが、委員のみなさんからご意見等あるか。

(質問及び修正意見など無し)

7 審議

「これからの学校施設に求められる機能について」を審議。教育総務課参事より資料1~4を基に審議事項について説明。

【会長】

○事務局から審議事項について説明があったが、委員のみなさんからご意見等あるか。

【A委員】

○具体的にどのような事例を用いて審議を進めていけばよいのか指標となるものをいただきたい。

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

【事務局（教育総務課参事）】

○現在の学校施設で各学校において抱える課題に対し、国が定める「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」で5つの視点の分野で本市内の学校施設には何が必要なのか、こういった仕様になるといいのかといった内容の審議を進めていただきたい。

【B委員】

○学校を新設することを前提で議論するのか、また既存の学校を改修する前提で議論したらいいのかどちらの視点で進めたらいいのか。

【事務局（教育総務課参事）】

○これまでの審議会では「本市の特性を踏まえた市立学校の配置」や「小中一貫教育の更なる推進を図るための方策」といった全市的な大きな枠組みで議論を進めている。今回審議していただく「これからの学校施設に求められる機能」についても、本市の状況を踏まえて何が必要なのかを審議し、学校施設を新設する場合や既存の学校を改修する場合など、学校施設の整備を進めていく際の方向性を示す指針が作れるよう議論していただきたい。

【B委員】

○方向性を考えるという点は良いと考えるが、費用がどれだけ発生するかというのも考えていかなければ理想のまま終わってしまうと思われる。

【事務局（教育総務課参事）】

○市の学校教育としても持続可能な運営という点で計画的に進める必要があり、金額も考慮する必要があるが、金額の部分を含めて議論すると内容を縛ることになるので、細かい部分を含めて議論していただき、まとめの段階で指針という形でまとまると良いと考えている。

【A委員】

○学校施設に求められる機能ということであれば「夏は涼しく、冬は暖かい」、児童生徒が安心して過ごせるなどの環境が整備されていることが大前提だと思われる。資料を見ると様々な学びスタイルについて事例が挙げられているが、現在の学校施設で働く教職員からの要望を受け、それを基に方針を作ることは可能だと考えるが、個々の教職員として、学校施設に学びのスタイルをこうして欲しいといった意見を出すことは難しいと思われる。また、学校施設に求められる機能は子ども目線で考えるのか、地域の人々の立場になって考えるのか等目線が誰なのか考える必要があると思われる。

【事務局（教育総務課参事）】

○学校施設に求められる機能は子ども目線のほか、本市の現状を考えるとコミュニティスクールが全市的に展開されているので、地域の方とのつながりも視点として考える必要があると認識している。

【C委員】

○北広島全体で見ると公共施設の老朽化が著しい印象にある。市民の高齢化という背景もあるので施設を新しく作るのであれば教育委員会だけでなく市全体で検討する必要があると考える。現在あるコミュニティ施設も学校施設に集約し、住民が学校施設を利用できる場を増やしてほしい。

【教育部理事】

○新しい時代の学びは教育振興基本計画においても、将来にわたって活躍する児童生徒を育成するとなっており、資料では長い視点で見た時の学校施設整備の基本的方針として国から示されていると捉えていただきたい。現状での北広島市ではどんな学校づくりができ

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

るのか、また子どもたちにどんな学びの環境を提供できるのかをこの審議会で議論していただき、その内容を基に方針を作るよう進めていきたい。

【会長】

○新型コロナウイルス感染症が流行し、児童生徒が学校に毎日登校できない状態が続き、教室で先生が授業を行う形態だけでなく、端末での授業を行うというスタイルが登場した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後もそのように学習している場面もある。ここから児童生徒一人一人に応じた学びを提供する「個別最適化」という言葉が生まれた。だがそれでは子どもが一人で勉強するということなので一緒に考えたり、作業することができないため「共同（一緒に学ぶ、一緒に考える）」という場を作ることが国の示す新しい教育の在り方だと言われている。推進するにあたって本市ではどのようなアプローチができるのかということをおよびの審議会で議論したいと思う。およびの審議会では事務局からいくつかの案を提示するような形で進めたい。

【教育部長】

○施設を作るうえで一番大事なことは今後どういふ機能が求められていくのか、そのためにどんな施設を作らなければいけないのかであり、地域に比重を置いて考えるのか、児童生徒に比重を置いて考えるのか等の論点を教育委員会の中で整理をし、その上で委員の皆様に対し議論の内容を提示できるよう進めていきたい。

8 その他

(1) 次回審議会の開催について

事務局から、次回審議会は後日日程調整したい旨説明。(令和6年1月以降)

8 閉会

令和 5年12月19日

会議録署名委員

月居 忠文